

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名				第三者評価受審年度	6年度
光の家就労ホーム					
項目	評価結果に基づく現状分析 (6年度)	改善計画 (6年度10月時点)	実施状況 (6年度末時点)	実施状況 (年度末時点)	
強度行動障害を有する利用者への個別手順書および個別支援計画のさらなる充実が望まれる	厚生労働省は強度行動障害の障害特性を正しく理解し、根拠のある手厚い支援をおこなうことを求めており、それを受けて、当事業所では強度行動障害の方に対して、個別の支援手順書を作成している。支援手順書には、時系列にサービス内容・注意点などが記載されている。しかし、事業所では、実行性のある強度行動障害計画シートを作成し、個別支援計画のさらなる充実を図っていく意向である。強度行動障害を有する利用者への個別手順書および個別支援計画のさらなる充実が望まれる。	毎月の職員全員参加の職員会の後、30分研修と称して強度行動障害を有する利用者への個別支援書を更に実行性のあるものへ修正するため実施する。	強度行動障害支援者養成研修を受講した職員を中心として小グループを作り、ディスカッション形式で取り組むことができた。又、職員会は全職員が参加する利点があるため、その後の研修実施は、全体での共有を図ることができ、更に実効性のある手順書を作成することができた。		
利用者がクールダウンする場所や話を聞く場所についてさらなる工夫・整備を期待する	職員アンケートでは、利用者がクールダウンする場所や話を聞く場所の整備を課題としたコメントが寄せられた。当事業所の仕事内容の豊富さや地域との交流の様子を見学・実習体験することで、卒業後の進路先への希望が多く、年々利用者増となっている状況である。そのため、当事業所の北側にワーク・プレイセンターを新たに建築し、当事業所の作業する場所も広くなる予定であるが、利用者がクールダウンする場所や話を聞く場所についてさらなる工夫・整備を期待する。	次年新設されるワーク・プレイセンターにクールダウンできる部屋がいくつか完備され、完成すれば解決することであるが、その間までは今ある環境で使わない部屋の時間帯を探し、少しでの利用者が落ち着ける空間を確保する。	余暇時間は基本、建物の2階を使用してるが、1階で使用していない時間帯の医務室や職員の控室等を使い、利用者がクールダウンする場所や話を聞く場所の工夫を行っている。		
BCPについての職員の理解を深めるために、研修や訓練を着実に実施し、実効性の高いBCPとなるよう期待したい	事業所では大規模災害および感染症を想定した事業継続計画(BCP)を策定している。大規模災害時のSMS(ショートメッセージサービス)の一斉配信を利用した連絡体制の確認や参集訓練を実施して災害発生に備えている。感染症では、本部との連携を深めて本部や事業所の機能を維持するため、職員応援体制の強化を図っている。一方、職員に対してはBCPを配布して周知を図っているが、訓練に関しては未了であるため、定められた手順に従って動けるのかなど有効性を確認するとともに、職員の理解を深めて、実効性の高い計画となるよう期待したい。	新たな実行性のある事業継続計画を策定し、それに基づく訓練の実施を行う。	新たな事業継続計画の修正を防災活動委員会メンバーを中心に行った。それに基づきまずSMSの一斉配信を行い、まずは有事が発生した際の職員の安否の有無の確認を行う等、実質的な取り組みから始めている。		

※この様式は、「日野市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。